

裁判公判日程

坑内火災裁判 公判 二月二十五日午後一時から福岡地裁 上村裁判公判 二月二十七日午前十時から福岡高裁でこの

三池大災害裁判公判 二月

で、前回公判での金子証言に対する、会社側弁護士による反対尋問が行われる。

上付裁判公判 二月二十七日午前十時から福岡高裁で。この公判で結審となる予定。

苦難を乗り越え前進

職場で加わる資本の攻撃

政治反動、経済危機、荒れ狂う合理化攻撃を背景に、三池鉄鉱でも貯炭増などを口実に、資本の攻撃が目立ち始めた。これに対し各職場は、この攻撃を乗り切って七九春闘・地方選挙の勝利を目指し、団結を強めて闘おうとの気組みを強めている。

今、ようやく職場新聞の新年号が出そろいつつある。そこには、のあせりには有事立法問題そのものに見られるように、国民をふみに、職場分会をそれぞれに、奮闘、統一に、統一地方選挙に力を集中し、じつてまでもその力の存続に懸命に進みましょう。(三川・原方田地方選挙を前に、「統一ある行動」になつていきます。

昨年一年を振り返つてみて、労働者にとって厳しい一年であつたと思ひます。その厳しい闘いの中、で、分会員皆さん方が全員で団結し、地域分会(二月一日発行)

と努力によって苦難を乗り切り、
職場では資本が自主保安、自主
管理等々、働く者への責任転嫁、
労働密度を高め、労働条件の切り
下げ攻撃をかけております。私達
ほせん

**統一で苦難を
乗り切ろう**

し、統一を守り、あらゆる闘いの
身をもつて参加されたことに心よ
りお礼申し上げます。また今年
も、昨年に倍して情勢は厳しいあ

統一で苦難を
乗り切ろう

昨年一年を振り返ってみて、労働者にとって厳しい一年であったと思います。その厳しい闘いの中で、分会員皆さん方が全員で団結し、統一を守り、あらゆる闘いに身をもって参加されたことに心よりお礼申し上げます。また今年も、昨年に倍して情勢は厳しいい

坑外で重大災害

保安を手抜いた会社

会社は屠蘇の香もかわかぬうちから、早くもその気ええあれば、簡単に避けられる災害をひき起こし、一人の坑外労働者にとり返すのつかない重傷を負わせてしまった。

三池鋳業所（織田亮三郎所長）
三池鋳業所は、七日の日曜日、三池港
のなかにある中央発電所で作
業中一万二千ボルトの高電圧線
感電、重傷。三井天領病院にか
ざこまれ一命こそとりとめたが
十一日現在両手の腕が完全

分会の仲間には本年停年になられる人達もおられ、また若い人達もいます。心強いのは、先輩の皆様のご指導とご協力があることで、労働者の幸福を勝ちとるために、今年婦人労働者に対するしめつけが全般的に強まる傾向で、さらに重大な意味をもつ統一地方選挙、コンプ、チクワなどを有に、新への決意をこめて旗開きの行事を祝った。

婦人部旗開き
固めた決意

頑張りましょう。(三川・四分会
一月一日発行)

記事訂正

本紙前号の「新春座談会」記事のなかで、「湧き水で手をやけどした」云々が、四山指導部の立山義人さんの発言のようになっていますが、これは前川書記次長の発言でしたので、訂正しておわびいたします。ご迷惑をかけました。

——編集部

百歲以上19,000人

ソ連＝隠されたこの事実

▼…これ
は、新聞「赤
旗」にのって
いた興味ある
記事。

十二月) 夕
ス】ソ連の英
字紙モスコウ
・ニユースに
よると、一九
七〇年の国勢

調査の結果、ソ連の百歳以上の長寿者は一万九千三百人、十万人に八人の割合です。

他国との比較では、米国は十万人に一・五人、英国〇・六人、フランス〇・七人、日本〇・一人となつてゐます。

業中一万二千ボルトの高電圧線につけ、初めて事を知ったものだった。昨年十一月三川(坑底)で死亡した西村守さんの場合など、被災現場を見た者さえいず、どちらの場合も、保安管理者がその場でちゃんと助言していれば、当然防ぐことのできた災害。それを怠った会社は責任をのがれることができない。

▼このすずめできるのが、この青汁服用の欄で一度青汁の原料は野草で、まずよもぎが常用法に第一。それにペンペン草やこべ、タンポポ、松の葉など、冬でも採取できます。春・夏・秋

再び青汁用

寒い冬は、中高年齢者にとつ
法について

ては高血圧症の要警戒時節。倒れる人が急上昇します。

かといつて、病院の薬に頼り過ぎることも可い。そこには適度の運動が大切ですが、それよりも高血圧症の克服です。お

ぬものですが、今は見られませんが、前は、前記の野草に大根、カブ、ニンジン、ホーレン草、キヤベツなどを加えるので、種類

は多いほどよいようです。

です。ただ即効薬ではなく、長く用いる根気が先決。筆者はおかげで、高血圧症から解放されました。今は薬は用いていません。

(K記)

—— 編集部

編輯部

NC 270.8

い の ち

1954年1月1日

NO 270
1979.1.1
三池坊組
三川指名部
16分會

短歌
木村 亨

みんなて話し
みんなて行動を
16分会長 小川 敏志

号に近
られる。

とえ起居できるまでも、労働はおろ何一つとしてひと

優したと
防ぐことのできた災害。それを食
った会社は責任をのがれることが

て、堂々と、もつと豊かな社会
障を求め闘っていきたいもの